

踏圧作業のポイント 「5つの技！」

其の1

サイロのスロープを長く作ってワンマンハーベスタを上にあげ、前進しながら原料草の荷下ろしをします。
1カ所に固めて荷下ろしをしないようにします。



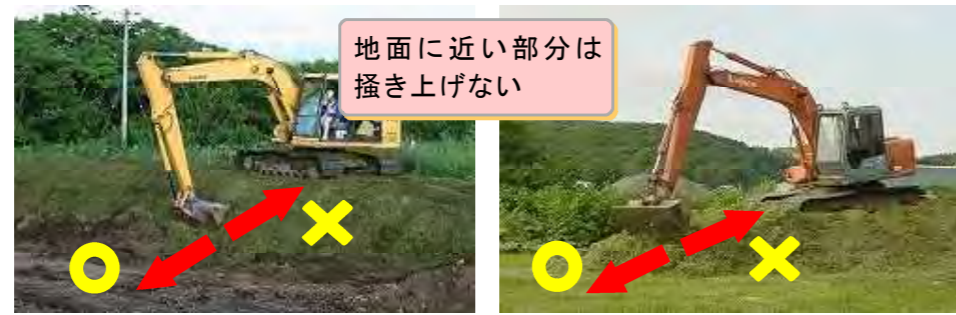
其の2

荷下ろした原料草がなるべく薄く均一になるように、バケットを左右に振って原料草を拡散します。
拡散の厚さは30cm以下が目安です。



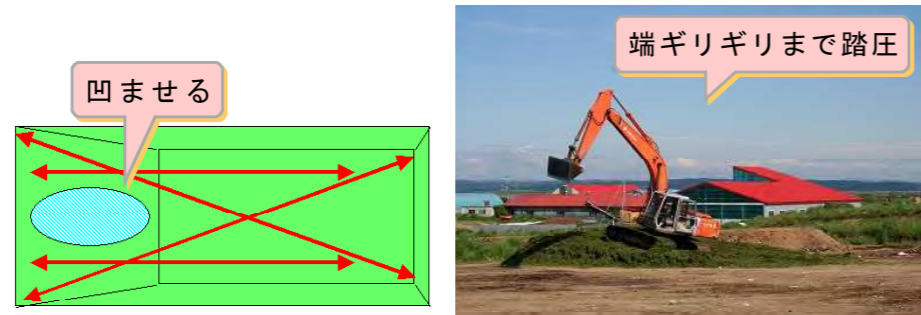
其の3

サイレージに土が入るのを防ぐため、地面に近い部分はバケットで掻き上げないようにします。



其の4

前後、斜めにまんべんなく踏圧します。サイロ中央を凹ませると、端まで寄って踏圧することができます。



其の5

両端は垂直に、上部は平らになるように形成した方が、土による重石が効くようです。



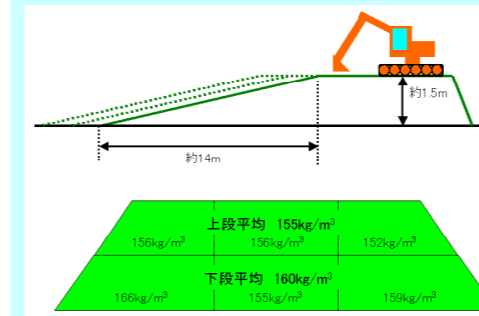
スロープの長さによる密度の違い

「密度の目標は150kgDM/m³以上」

①長いスロープ（10m以上）

…上部、下部とも密度が高い傾向

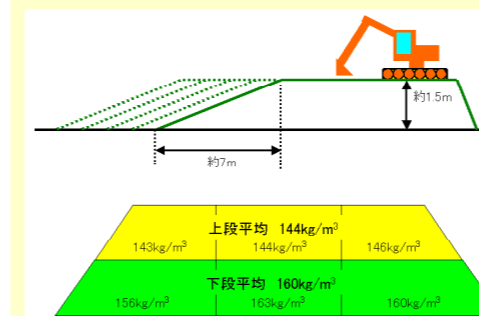
スロープを長く作ると、原料草を薄く拡散しやすくなります。一度に踏み込む厚さを薄くできるため踏圧がかかりやすく、密度の高いサイロを作ることができます。発酵品質の良いサイロが多い傾向です。



②中程度のスロープ（5～10m）

…上部は密度が低く、下部は高い傾向

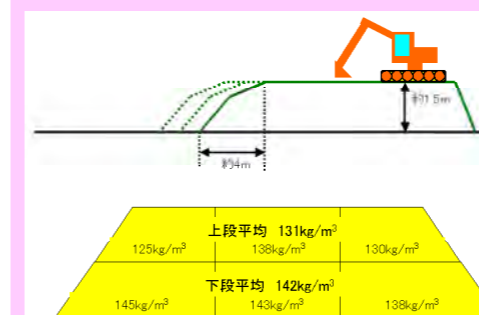
長いスロープよりも密度が安定しない場合が多く見られます。原料草の拡散がうまくできない場合、密度が低くなりがちです。下部の密度は高いのですが、上部の密度が高まらないサイロが多い傾向です。発酵品質にバラツキが見られます。



③短いスロープ（5m以下）

…上部、下部とも密度が低い傾向

スロープが短い場合、原料草を薄く拡散することが難しいため、一度に踏み込む草の量が多くなります。そのため踏圧がかかりにくく、密度が高まりません。発酵品質が低下しているサイロが多い傾向です。



踏圧作業Q & A

監修：宗谷農業改良普及センター宗谷北部支所

Q.なぜ、踏圧が重要なのか？

A.乳酸菌が働きやすい環境を作るためです！

サイレージは、乳酸菌の働きによって牧草を発酵させるため、貯蔵のきく栄養価の高い飼料となります。乳酸菌を十分に働かせるためには、空気のない状態（嫌気状態）を作らなければなりません。

踏圧作業は、原料中の空気を抜いて乳酸菌の働きやすい環境を作るための大変重要な作業です。



Q.踏み込み厚さが厚いと、どうなるのか？

A.圧力が下まで届きにくく、密度が高まりません！

原料草を拡散せずに踏圧すると、圧が下まで届きにくくなるため密度が高まりません。

特にバックホーの場合は**接地圧が低い**ため、薄く拡散してから踏圧をしなければ、密度を高めることが困難です。



Q.発酵品質は牛にどのような影響を与えるのか？

A.牛の食べる量や栄養価、さらには病気まで様々な影響を与えます！

発酵品質は牛の嗜好性に影響を与えるため、不良発酵したサイレージは摂取量が落ちる場合があります。

さらに、乳酸菌がうまく働かない場合は、雑菌や酵母（カビ）によって牧草中の栄養が分解されるため、栄養価の低いサイレージになってしまいます。

サイレージの栄養価が低いと乳量が減るだけでなく、病気が多くなったり繁殖が悪くなったりと、酪農経営に大ダメージを与えます。



《資料活用にあたって》

サイレージの踏圧作業は、接地圧の高いタイヤショベルやトラクタなどで行うことが勧められています。しかし、豊富町ではバックホーの普及率が高く、サイレージ踏圧作業にもバックホーが活用されています。この資料は町内の事例を元に、サイレージの踏圧にバックホーを用いた場合、密度が最大限高まる作業方法についてまとめたものです。活用にあたっては作業機や作業方法等について、十分留意して頂きますようお願いいたします。

※お問い合わせは 宗谷農業改良普及センター宗谷北部支所 TEL:0162-82-2119

バックホーオペレーターのための

サイレージ踏圧マニュアル

十分な踏圧は、おいしいサイレージ作りへの第一歩です！



良いサイレージを作るためのワンポイントを紹介します！



この資料は、豊富町の酪農家の皆さんの協力を得て作成されました。